Vol.840　（月刊）毎月１日発行　Kenko Shinbun　2026年（令和８年）１１月１日　無料

新健康協会では、新しい健康法を伝える「健康新聞」を毎月発行し、人間の持つ治癒力や適応力をお伝えしています。肉体的、精神的なことでお悩みの方もぜひ御一読ください。

健康新聞

発行所
発行人　新健康協会
〒813-0001
福岡市東区唐原６－７－１
TEL:092-661-1531
https://shinkenko.jp

次の御論文は、明主様（当協会の教祖）が、昭和二十四年に発表されたものであります。
世界平和と心身共に健全な人間作りを目指す活動に御理解を頂ければ幸甚です。

善を楽しむ

私はつくづく世の中を観ると、多くの人間の楽しみとしているところのものは、善か悪かに分けてみると、情ないかな、どうも悪の楽しみのほうがずっと多いようである。いな楽しみは悪でなくてはならないように思っている人も少なくないらしい。

まず一家の主人公であるが、生活に余裕ができると花柳の巷へ行きたがり、二号などを囲いたがる。しかも、それがための金銭は正当でない手段によって得るほうが多いようであるが、勿論それは悪に属する行為である。それがため危ない橋を渡り、国家社会に損失を与えたり、自分自身としても家庭の円満を欠き、不安の生活を送ることになろう。しかも成功と享楽が人生最後の目的であるかのごとくし思惟し、知らず知らずのうちに現世的地獄に転落するのであって、そういう人士は中流以上に多いことである。と共に、それら成功者を見る大衆は外面の様相のみに眩惑され、人生これなるかなと羨望し、そのまねをしたがるから、何時になっても良い社会とはならないのである。また正直者はバカをみるという言葉もあり、まじめに世渡りをしている者は下積みになり、危ない綱渡りをする者が出世をして豪奢な生活をするという現状である。そのほか官吏の役得、会社員の不正利得、政治家の闇収入等々、全く俯仰天地に恥じない人は今日何人ありやといいたい程である。

ここにおいて、私は善を楽しむことを教えたいのである。即ち相当社会に頭角を現すようになっても、柳暗花明の巷に出入りするようなことはできるだけ避け、余財あれば社会公共のために費し、困窮者を助け、善徳を施し、神仏に帰依し、ときどきは家族を引きつれ映画、演劇、旅行等を楽しむのである。こういうようなやり方であれば、一家は団欒し、妻は夫を尊敬し感謝するようになり、子女のごときもまず不良になる心配はないであろう。従って経済不安もなく、不摂生もなく、健康も恵まれ、長寿も保ち得らるるわけで、日々を楽しみ、心は常に洋々たるものがある。明治の富豪として有名な大倉喜八郎氏はおもしろいことを言った。「人間長生きをしたければ借金をしないことである」と。それは借金ほど精神的苦痛はないからである。私も二十年間借金で苦しんだ経験があるので、よく分かる気がする。しかるに、現代人の中には暴露すれば法にふれたり瀆職罪になったりするようなことをなし、暗闇の取引を好み、妻君に知れたら大騒動が起こるような秘密を作り、高利の借金をし、常に戦々兢々として不安の日を送っており、その苦痛を酒によって紛らそうとする。酒が何程高くなっても売れるのは、そういうわけもあろう。従って健康を害し、短命となるのは言うまでもないと共に、こういう泥沼生活に入ったものは、なかなか抜け出ることができないのが通例である。まず抜け出る唯一の方法としては宗教に入ることで、それ以外に方法はないであろう。

私は、以上のごとき善悪二筋道を書いてみた。悪を楽しむ人と善を楽しむ人とである。読者諸士よ、卿等はいずれを選ぶや、熟慮を望むのである。

浄霊体験記　2ページ　3ページ

- 体中の痛み良くなり 性格も前向きに…
- 苦しみから解放され こんなにも元気に…
- あんなに苦しかった頭痛から救われる…

浄霊によって病苦から救われると共に運命が向上し、幸せになられた方々の体験手記でございます。

腰痛・足の浮腫み

体中の痛み良くなり性格も前向きに…

芦北支部
福田晴治（ふくだはるじ）（65）

これは、今から約四十五年前の二十歳位の時の体験です。

当時、私は配送の仕事をしておりました。ある日の仕事帰り、足の裏が急に痛くなり、バス停まで歩くのもやっとで、何とか帰宅出来た…という状態でした。重たい物を運んでいましたので、その影響と思い、すぐに良くなるだろう…と考えていました。

しかし翌朝、目が覚めると腰痛と、膝や足首等の関節が腫れて痛み、動けなくなりました。私は子どもの頃から浄霊を受けていましたので、両親から浄霊を受けました。数日で楽になったので二日間仕事に行きましたが、今度は腰、膝、足首に加え、肩、腕、手首の関節も腫れて痛み、全く動けなくなりました。食欲やお小水も減り、リウマチのように激しく痛みました。その時の痛みは、今でも忘れられません。そして、仰向けで寝ていると、体の重みで背中や腰が痛く、自分で寝返りをすることすら出来ませんので、二、三時間おきに家族に体の向きを変えてもらいました。しかし、体に触れられたり、動かされたりするだけでも痛みがあり、体が宙に浮けばどんなに楽だろうか…と思った程です。この時も毎日浄霊を受けました。おかげ様で一ヵ月半程で良くなり、また元のように体を動かせるようになりました。

◇

それから数年後の二十代後半の時、この時も、腰痛や足の浮腫みで痛みがありました。この時は以前程の激痛ではありませんでしたが、一ヵ月程仕事を休みました。特に腰椎の骨と骨の間や、骨の右横や左横が痛んで、起きていられない状態でした。朝起きると手が浮腫んで、二、三時間経ってから段々と動けるようになったりするという状態で、体のだるさを感じていました。また、痛みも浮腫みもなく普段通りに動ける日もありましたが、今日は元気でも明日は分からない…。昼は何ともないのに夜は痛むことも多々ありました。しかし、浄霊を続けていると、年々腰痛や足の痛みも減ってきて、三十代からは寝込んだり、横になったりすることもなくなりました。

振り返ってみますと、二十代で足腰の痛みで動けなくなりましたが、「浄化作用で体内の毒素が排出され、体が清浄化される…」と聞いておりましたので、痛んでも不安はなく、安心して毎日を過ごせました。とても有難く、明主様に感謝申し上げております。

私はいつも体だけではなく、心も元気になっていくことを身をもって体験しています。子供の頃の性格は心配性でマイナス思考でしたが、徐々に良くなり、物事を前向きに考えられるように変わってきました。

心身共に、安心と感謝の日々を過ごせますことは大変有難いことです。一人でも多くの方が、浄霊を体験され、幸福になられることを願っています。

（熊本県葦北郡）

タヒチ

ゼンソク

苦しみから解放され こんなにも元気に…

タヒチ出張所
ビヨ・マレバ（61）

私は八歳の時から喘息になって十日が起こるようになりました。その頃は頻繁に発作が起こっていましたので、ゼンソクが酷い時は死を感じる程でした。そのため、数え切れないほどの医療を受けました。医療を受けると、何とか発作は楽になりましたが、発作の回数が減る訳ではありませんでした。それどころか、ホコリを吸い込んだだけで、ゼンソクの発作が起こるようになりました。私はこの状況に、何でも良いから健康になりたい…と思い、ありとあらゆる療法や気功等も受けました。しかしどれも効果はなく、良くなることはありませんでした。

私のゼンソクの発作は大抵四、五日続き、丸一日から一日半は苦しさで、のたうちまわりました。そのため毎日コルチゾンを服用しなければなりませんでした。しかし、その影響からか、心臓の鼓動は一分間に一〇〇回になり、それが一日中続きました。こうしたゼンソクの状態は三十歳を過ぎても続いていました。

変化に驚いた…

一九九九年一月十九日、三十三歳の時、近所の友人が、私の姿を見て、「浄霊を受けてみたら…」と教えてくれましたので、私はすぐに試してみたいと思い、タヒチ出張所へ行きました。

初めて浄霊を受けた時、ゼンソクの発作は出ていませんでしたが、浄霊を受けた後に体の疲れを感じ、三十分後には眠り込んでしまいました。それから十二時間後、ふと目を覚ますと、驚いたことに体の調子も良く、元気になっていました。私はこのただならぬ出来事に、浄霊への興味が湧き、それから週二、三回出張所へ通うようになりました。

浄霊を受けるようになって十日が経ったある朝、目覚めるとゼンソクになっていました。その日は、仕事でしたので、発作が激しくならないかと心配していました。私は、明主様に手を合わせてお願いした後、会社へと向かいました。

家を出てから四十五分くらい経った時です。私は、その時初めてゼンソクの呼吸音がないことに気付きました。そういえば体の疲労もない…、普通に呼吸が出来ている…。私はとても驚きました。なぜなら、今までゼンソクの発作があった時にこのような状況になることがなかったからです。とても信じることが出来ませんでした。私は、この時、何か素晴らしい神秘的なことが起こったのではないかと思いました。

数日後の週末、私は近くの島に出掛けたのですが、その時、ゼンソクの薬を持ってくるのを忘れていました。それまでの二十五年間、医療に頼りっぱなしで、浄霊を受けてからもまだ一ヵ月しか経っていなかった私にすれば、「うっかりしたな…」と思いました。実際、その時もゼンソクの発作が起きたのですが、先日の神秘的な体験をしてから、明主様は信じられる神様…という思いが強く、不安はありませんでした。私はすぐに明主様を祈り、心からお願いしました。すると四十五分後にはゼンソクの発作が消えたのです。快調そのものでした。信じられない出来事に、夫も娘も驚いていました。

一九九九年十月十六日、私は入会して、自分でも浄霊が出来るようになりました。浄霊を受けるようになって、ゼンソクの発作の回数も変わりました。最初は年五、六回だったのが、翌年には二、三回になり、その次の年は一回となりました。

私は救われて、とても幸せです。

浄霊を知る機会を与えてくださった明主様に大変感謝しています。

（ポリネシア・タヒチ島）

ネパール

頭の腫瘍

あんなに苦しかった頭痛から救われる…

チミ出張所
チャダニ・スレスタ（46）

二〇〇三年、私が二十三歳の時、ひどい頭痛に悩まされました。どうにかして痛みを和らげたいと思い、頭に刺激を与えてみたりもしてみましたが、効果はありませんでした。また、薬局で頭痛薬を買って飲んでいましたが、それでも効果はなく、痛み始めてから三ヵ月経っても頭は痛いままでした。

その後も痛みは続いていましたので、二年後の二〇〇五年、私はカトマンズの病院へ検査に行きました。そして、様々な検査の結果、「頭に腫瘍が出来ている…」と言われて、「すぐに手術をしないと目が悪くなって見えなくなります…」と言われましたので、私は、家族からの助言もあり、手術をしました。

手術をした後、私は普段通りに生活が出来て、家事も出来ていました。

それから九年後の二〇一四年、以前と同じように頭痛が再び始まりました。そして、検査するために同じカトマンズの病院に行きました。すると、検査の結果、また「頭に腫瘍が出来ている…」と言われたので、二回目の手術をして腫瘍を取り除きました。その時お医者さんが、「頭の腫瘍は再発を繰り返すだろうし、今後も手術が必要になる…」と言われました。それを聞いて、私はとても不安になりました。

二回の手術で私の体は弱くなり、繰り返される手術の痛みを耐えるのも難しく、この痛みをどうやって我慢すればいいのか…、四歳の娘がいるけど、こんな生活で大丈夫なのか…と、頭の中で色々な思いが起こりました。

お医者さんの話を聞いて、家族も心配しました。どうするのが一番良いのだろうか…、手術を必要としない治療法はないだろうか…と考えていました。

そう考えている内に、二回目の手術から二ヵ月が経ちました。

信じられないほど楽になった…

そんな時、知り合いのシリキリスナさんに出会いました。私は自分の状況や今後も手術が必要なこと、手術をしなくてもいい治療法がないか…等の話をしました。すると、シリキリスナさんが「浄霊によってあなたの症状が良くなるかもしれない。一度浄霊を試してみたら…」と言って、新健康協会を紹介してくれました。

この話で、私も浄霊を試してみたくなりましたので、二〇一五年七月にシリキリスナさんと一緒にチミ出張所へ行きました。

浄霊を知る前の私と、浄霊を受けた後の健康は全く違いました。

私は、明主様の浄霊の偉大な力にびっくりしております。短い期間で、あんなにも苦しかった私を救ってくださいました。本当に有難うございます。

明主様のおかげで健康になり、今では仕事も出来るようになりました。

お医者さんが「何回も手術をしなければならない…」と言われていたにもかかわらず、手術をしないで、新しい人生を頂くことが出来ました。この時から現在で十年が過ぎましたが、この間、薬を飲まずに普段通りの生活が出来ています。

◇

その時、私は浄霊を受けましたが、何も感じることが出来ませんでした。それでも元気になりたい…との思いで毎日浄霊を受けました。

そして、二週間浄霊を受けた後、頭痛が激しくなったので、すぐにチミ出張所へ行きました。頭痛は激しかったのですが、浄霊を受けると少し落ち着きました。

それから三日間、毎日チミ出張所に行き、浄霊を受けました。その間、責任者であるスニタさんが、浄化作用や浄霊についての説明をしてくれましたので、安心して浄霊を受けることが出来ました。おかげ様で少しずつ楽になっていき、頭も軽くなっていきました。そして、三ヵ月で頭痛が完全になくなりました。二回も手術をしているのに、私の頭は信じられないほど軽くなりました。

仕事も出来るようになった…

健康新聞を読んでいますと、奇跡的な力によって多くの人々が救われたお話ばかりですので、心が幸せになります。私も今回、健康新聞に体験談を掲載してもらいたいと思っていたので、本当に嬉しいです。

一人でも多くの方に、奇跡の浄霊を体験して頂いて、幸せな人生を過ごしてほしいと願っています。

誠に有難うございます。

（ネパール・チミ）

浄　霊

浄霊は、大自然のエネルギーであり、病気やあらゆる問題で苦しんでいる人、悩んでいる人を救う方法です。

浄霊によって魂は清浄化され、肉体が健康になっていきます。

まずは試されてみてはいかがでしょうか。

浄化作用

人間には体内の毒素（= 不純物）を排除して健康を促進しようとする働きがあります。例えばカゼの場合、体内にあってはならない毒素を溶かすために熱が出ます。溶けた毒素が鼻水やタンとなって排出されるので体の中が掃除され、清浄化されます。

その毒素排除の過程を「浄化作用」と言います。浄化作用は、熱や痛みを伴うので苦しみがありますが、体を健康にする大切な清掃作用でもあるのです。

自然農法

自然農法とは自然を尊び、愛情をかけて育てることで、自然力を生かす農法です。

自然農法体験談

札幌支部
横山泰明（よこやまひろあき）（72）

明主様は私が自然農法の畑に専念出来るように、周りの生活環境を整えて下さいました。

二〇〇九年に畑の土地が見つかった時には、全ての準備が整っていて、あとは覚悟を決めるだけでした。強く導かれていると感じます。

北海道札幌市豊滝のビニールハウスではミニトマトとアロイトマト（大玉）を九年間一緒に作付けをして交雑していました。現在はアロイトマトのみの作付けをしていますので、少しずつ元の大玉トマトに戻っています。これも自家採種の良い所で、好みの品種に導けます。

今年のアロイトマトもとても美味しいです。完熟前のトマトを休憩時間にスタッフさんと食べていますが、すぐに無くなります。これで農作業も元気いっぱいです。

実はこのトマト、最初からこの味ではなかったのです。自然十一年かけて美味しくなって行ったようです。トマトは当初ホテルに出荷していましたので、そこのバイキングで一番先に無くなるのは、うちのミニトマトとアロイトマトでした。この頃から片鱗が見え隠れしていたのでしょうね。

◇

トウモロコシも機械植えやマルチ使用等、色々な作付けを試しながら、失敗を重ねて来ました。現在は畝間株間とも六十センチの手植えです。作付けには木槌を使います。

最初の一振りで穴をあけ、種を二粒落とします。次の一振りで不思議と種は土に隠れてしまいます。自信が無い時はもう一振りします。水やり機で水やりすると穴に水が染みて行きます。これでほぼ一〇〇パーセント発芽します。感謝感謝。ここまで来るのが長かったです。

トウモロコシも美味しいのでしょう。トウモロコシ畑には、テグス張りと周囲には電気柵で完全防備のつもりですが、動物たちが食べに来ます。

自然農法のトウモロコシは高さが統一しておらず凸凹なので、収穫は一本一本、丹念に見て回ります。しっかりと心を込めて、間引いて、ヤングコーンで出して、そして収穫します。大事なのは気持ちが届く事だと感じています。

自然農法で素晴らしい作物が出来ています。素晴らしい作物で、素晴らしい体作りのお手伝いをと強く願っています。ありがとうございます。

横山さんの畑に出来たトマト・横山さんのトウモロコシ畑

美の世界

美によって人間の情操を高め、生活を豊かにし、人生を楽しく意義あるものにすることができます。

井上三綱（いのうえさんこう）《牡牛（おうし）》

「牛」を題材に描かれた作品は少なくありません。牛は農作業や運搬、移動を支えるパートナーとして、人と長く生活をともにしてきました。日本では信仰の場面に登場することもあり、たとえば菅原道真（すがわらのみちざね）の神使（しんし）として考えられるなど、特別な存在感をもった動物であるといえるでしょう。古くから日本や東洋の美術には畑を耕す姿でも表され、それは春の訪れであり、五穀豊穣（ごこくほうじょう）を示す吉祥（きちじょう）の意匠（いしょう）でした。

昭和に活躍した井上三綱は牛を好んで取り上げた洋画家です。井上は福岡県八女郡（現筑後市）に生まれ、同郷の先達（せんだつ）である坂本繁二郎（さかもとはんじろう）を師と仰いでいました。坂本は渡仏後郷里に戻り、八女での生活を制作源に活動した画家ですが、東京時代からずっと身近にいた牛を描き続けています。近代化していく時代に、失われていく自然の生命への共感を表明するかのように。

井上は教員となって故郷を離れ、しばらくすると神奈川県小田原（おだわら）市に移り、教員を辞めてこの地で本格的に画家として生活していくようになります。しかし、井上の画業は一貫して筑後から生まれ出た気質のようなものが滲（にじ）み出ているように感じられます。それは櫨（はぜ）など郷里を象徴する景物（けいぶつ）を取り上げることだけでなく、坂本や青木繁（あおきしげる）を尊敬し続けた態度が作品にも反映されていることにもよります。ただし、井上が描き求めていった牛は、坂本のそれとは大きく異なっています。風景画を好まなかったとされる井上は、風景のなかにあるものではなく、牛そのものに目を向けます。本作も牡牛が駆けているような様子が中央に配されており、上部に見える曲線や、下方から顔を出したり仰向けになったりしている他の動物とともにコマ送りの一場面を捉（とら）えたかのようです。また、塗り重ねられた層を彫るようにして輪郭線（りんかくせん）が引かれ、表面もところどころ削られた状態が古代壁画のようなテクスチャーを生み出しており、これらがあいまって、まるで生き物が躍動していた時そのものが画面に閉じ込められているようです。

描く対象を抽象化して、洋の東西を超えた普遍性（ふへんせい）を獲得しようとした井上は、絵画の歴史を広く見渡していたでしょう。牛を選ぶその立脚点には東洋の、そして筑後の精神性が刻（きざ）まれているように思われます。

解説　松田愛子（まつだあいこ）

晴明会館

「祈りをこめて」前期展
期間：令和８年６月９日（火）～12月５日（土）
※晴明会館お問い合わせ ☎（092）661－1535

晴明会館（美術館）のインスタグラムはじめました。
@SEIMEI_KAIKAN

健康新聞についてのお問い合わせは（092）661－1531まで